

卒業生によるボランティア活動グループ「わ」会報

# 情報ぎゃらりー

## 第44号

発行日 2008年10月28日  
 編集 グループ「わ」広報部  
 発行者 加藤 勇治  
 発行元 NPO法人社会還元センター  
 グループ「わ」  
 TEL(078)743-8101 FAX(078)743-3830  
 Eメール group-wa@wa-net.jp  
<http://www.wa-net.jp/index.shtml>

グループ「わ」『子どもたちの学習支援活動』

### 平成20年度第1回『学習支援の集い』開催さる

子どもたちの学習支援委員会

グループ「わ」子どもたちの学習支援活動」登録者による平成20年度第1回「学習支援の集い」が8月8日午前10時からカレッジ第1~4学習室で、井上堅副委員長(福8)の司会で開かれた。



加藤理事長(美10)が「支援活動は平成17年7月にスタートし、すでに3ヶ年を経過し4年目に入っている。市内の各小学校、養護学校からの支援要請が評判に評判を呼び、毎年要請がふくれて今や市内61校から学習支援をひとつぜひ「わ」の方をお願いしたいという要請が来ている。学習支援活動登録者の皆様には、いろいろとご苦勞をおかけして、各学校で頑張っている訳です。

毎年定期的に「学習支援者の集い」を催して、学習支援に係わる情報交換をして、学習支援の活動がより効果的に進むように相互研鑽する場を持っております。

今日は、限られた時間ではありませんが、日頃活動されている現場の経験をそれぞれ発表して頂くなど相互研鑽を深めていただき、学習支援に対する我々の支援対応力を一層高めていきたいと願っております。実のある集いにして頂きますよう、

ご協力をお願い致します。」と開会の挨拶。

続いて来賓の小林事務局長から「グループ「わ」の皆さんには、平素から大変お世話になっておりまして、カレッジ、或いはしあわせの村の協会がいつも助けて頂いております。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

この学習支援活動は平成17年から始まって早いもので4年目ということで、学習支援の指導補助の内容も資料を見せて頂きますと、教科、実技、日本文化の伝承、特別支援と多岐にわたっておりますけれども、要請のなかで特別支援教育が一番多いようでございます。

ここまでこの活動を立ち上げて育ててこられました、関係者の皆さんに対しまして、本当に感謝いたしますと共に心から敬意を表するものでございます。特に支援者の方の思いやりの心、奉仕の心には本当に頭の下がる思いでございます。

これらの活動に対しましては、市教育委員会、或いは現場の先生、だれよりも子供たち或いは親御さんが、本当に感謝し、頼りにされていることと思っております。

今井学長は常々「誰もの幸せを願い、支える心が大事である。そして福祉の心は寄り添いの文化を広げていくことにある」とおっしゃっております。カレッジの精神を培われた皆さんがおっしゃっています「再び学んで他のために」をまさに実践して頂いているものと改めて御礼申し上げます。在校生の皆さん取り組まれている地域交流活動は、ちょうど17年度から本格的に始まったと思いますが、現在62グループのうち45グループは、見守り活動などの学校支援活動を57校で行っております。

今後グループ「わ」の学習支援活動と地域交流活動の学校支援がうまく連携しまして、支援活動がより広がることを願っております。

後継者については、両方ともいろいろ難しい問題があるかと思えますが頑張りたいと思っております。

事務局と致しましてもできる限りの支援をしてみたいと思っております。最後になりましたが、学習支援活動がいつまでも続き、大きく輪が広がるとともに、支援者の皆さんが、いつまでも元気で活躍されることを祈念いたしまして、ご挨拶といたします。」とお礼と激励のお言葉を頂いた。

集いに参加した支援者の自己紹介があり、4グループに分かれグループディスカッションに入った。

各グループの討論内容は次の通りです。(次ページに続く)



全体会議

2008.08.08.11.56

(前ページから続く)

### 第1グループ・大塚座長

小学校からの支援要請で特別支援が一番多いので特別支援を中心に話合った。

支援者は「より良い支援のためにどうしたらよいか?」いろいろ問題意識を持っています。また「こうすればよいのではないか」という提案も持っている。しかしこのような問題提起や提案をだれに相談すればよいか分からない。学校幹部のせんせいがたも忙しくてなかなか現場をのぞくゆとりがない。本来特別養護施設に行くべきところの児童が無理に普通の小学校通学していて現状ではボランティア(支援者)に任せっぱなしになっている。

学校側の特別支援要請と支援者のマーケティング問題で学校・支援者双方が問題解決に具体的に動けない点が最大の課題となっている。

### 第2グループ・神林座長

現場ではボランティア(支援者)が孤立しているとまでは言わないが、共通の意識をもてる場所が少ない。そこで今日のようなディスカッションの場があるということは嬉しいと意見が多かった。

今日は1時間ですが、2時間とまとめて30分あればどうでしょう。

同じ学校に二人が支援に入ってもほとんど話し合わない、また、担任の先生と少し話し合うだけで、学年の先生や校長先生との話し合いの場が皆無のところが多い。たとえば、給食でも、ある学校では「教育の一環だから食べてください」という学校もあれば、給食費240円を支払ってくださいという学校もある。

やはり、学校と話し合う推進委員のような仕組みをつくって、最低の基準でも学校と話し合えることが大切ではないでしょうか。また、ボランティア(支援者)は社会的にも経験豊富ですから、先生方と話し合って先生方の考えを理解して補助に当たりたいと考えています。



### 第3グループ・川上座長

第3グループは、仲良し学級と特別教育支援に係わっている方が大半でした。そのなかで、特に、仲良し学級をサポートする場合と普通学級にいるハンディギャップのある児童をサポートする場合との大きなちがいについて話し合いました。

仲良し学級の子どもさんは担任の先生に密接にサポートされており、支援者も非常に子どもたちと仲良くできる、また、たとえば算数ができなかった子どもが指導によって少しずつ伸びている。普通学級にいる子どもは取り残されているようにみえて、支援者もどうしたらよいか悩むことがある。また学習支援活動のやりがいということを考えて、校長、教頭と挨拶もせず話もしないという学校があり改善したい。

子どもと係わると自分が慕われていると感じる、これが生きがいになっている。

### 第4グループ・渡邊座長

どのグループも同じかと思うが、皆さんは学習支援活動以外にもさまざまなボランティアをされています。そこで、特別支援活動について考えると、なかなか取り組みが少ないというのは、自然体で取り組むということが大切ではないかと話し合いました。

障害のある子どもや、健常の子どもと接する中で、我々もそこから多くのものであることができると思います。

また、参加者の方からの発言で、地域のグループに持ち帰って、今日この話をして学習支援、特別支援に希望者ができるよう話してみたいという意見もありました。

グループディスカッションのまとめの発表後、松本教務リーダーから「皆様にお会いするのが、私の元気の素でしてこのシルバーカレッジに勤めてから、学生の皆様、卒業生の皆様の生きていかれるお姿、そしてボランティア活動はじめさまざまな活動に一生懸命取り組まれているお姿に、本当に感激していますし、素晴らしいなと思っています。

そういう皆様にお会いできる子供たちが一人でも多く増えればいいなあ、皆様とお会いした子供たちはきっとその後の人生、心の何処かに温かいものを宿して、いい人生が送れるのではないかと心から思っています。

学校にはさまざまな先生がいるし、色々な組織のあり方があって、ご指摘は全てごもっともだということは、私自身感じますけれど、そんな中でも子供たちはやはり頑張っていて生きていますし、皆さんと出会うことで子供たちは絶対に心の中に温かいものを持って将来、何か辛いことあったときにきっと支えになると思います。

どんな形でも結構ですので、一人でも多くこのシルバーカレッジの学生・卒業生の皆様が子供たちと係わってくれることが増えますことを願って、そして私はそれをつなぐ仕事が出来たらと思っておりますので、今後ともどうぞ宜しくお願いします。」と講評を頂いた。

最後に総括として中沢委員長が「本日はお暑い中をありがとうございました。

グループディスカッションの座長4名の方のお話を聞きながら、今日お集まりの皆様が本当に熱心にお話し合いをされ、前向きな指針になるまとめが伺えて、私も大変嬉しく存じます。

先ほどのお話の内容を委員会でもよく検討させていただき、次回の参考にいたしたい。例えば、時間はもっと長く取れるように午後の開催にするとか、特別支援活動に対し改めてしっかりとした考え方をもって臨まなければならないと思いました。今日のように

(次ページに続く)

(前ページから続く)

なお話し合いを重ねてもつことが大切であると痛感いたしております。最後に本年度の学習支援状況等連絡します。

1, 最近3カ年間の支援実績

年度 (平成)	支援要請 (校数)	支援活動 (校数)
17	22	18
18	28	25
19	51	30
(20)	(63)	(33)

支援要請校数は年々増加していますが、最近特別支援要請が急増し、支援が追いつけない状況です。

2, 本年度未対応の支援要請校について

現在次の学校からの支援が、未対応になっています。支援にぜひご協力ください。

- 東灘区 本山第2、
- 灘区 稗田
- 中央区 山の手
- 兵庫区 東山(算数)
- 長田区 真陽、宮川、蓮池、五位の池、
- 北区 泉台、藤原台、谷上、鹿の子台
- 須磨区 松尾、菅の台、高倉台東落合
- 垂水区 高丸、千鳥が丘、多聞南
- 西区 出合、東町、井吹東、春日台、美賀多台、玉津第1、

( )は支援要請内容、

他はすべて特別支援

この集会は年3回開催、次回は年末近くを予定しています。今後とも何卒ご協力、お力添えよろしくお願い致します。」と挨拶されて学習支援の集いを閉会した。

# 本部

敬老パス(ICカード)運用開始  
国11-広 長谷川洸士

神戸市内在住の、満70歳以上の高齢者に交付されている敬老優待乗車証の制度が平成20年10月1日から、対象交通機関を無料で乗降できる市内全線共通パス方式(磁気カード)から優待料金(利用者負担)のICカード方式に変更された。

そのため、神戸市保健福祉局高齢福祉課から“わ”本部に、地下鉄山手線三宮駅で利用者に新制度の説明する「案内ボランティア」の依頼があり、概要説明会で、新しい敬老優待乗車証制度や、敬老パスおよび敬老無料券、敬老パス(ICカード)のチャージ(入金)についてのレクチャーを受け、10月1日から2カ月の予定で参加している。

改札口前のコンコースの券売機の側にある交通局の一室を借り受けて、常時2名が、午前・午後に現場に立ち、実演しながら懇切丁寧に説明し大変喜ばれている。

とくに敬老無料券の引き換え方法などの質問に対応し、実地指導した。



また、場所柄、地理不案内の観光客、外国人が観光案内所と間違えて問い合わせが多く、そちらの対応にてんてこ舞いの毎日が続いている。

## “わ”ロゴマーク 決定



### 制作者の趣旨説明

知見の社会還元という太い柱を囲む有志の輪というグループ名の由来をシンボル化し、かつ仮名文字の“わ”も想起できるような形に、希望・自然を表すブライト・グリーンで塗りつぶした。

NPO法人グループ わ のイメージや存在を内外に広く印象付けるとともに、全会員の結束強化の旗印とするため、「情報ぎやらりー第43号」でロゴマークの公募いたしましたところ、14名の方から22点の応募がありました。

斬新なデザインのもの、意表を突くユニークなものなどいろいろたくさんのご提案ありがとうございました。

運営委員会で厳正に審査し、投票の結果、投票者数26名のうち21票と圧倒的な推薦のあった、上記の作品が最優秀賞に選ばれました。

なお、優秀賞2点、佳作賞3点は、現在審査中で制作者名などを含めて、正式発表は次号(情報ぎやらりー45号)に致しますのでご期待下さい。

また本作品の意匠登録をするべく、弁理士に依頼するか、自分達でするか検討しております。

いずれにしても我々のシンボルマークが決定したことを取り急ぎお知らせします。

## 第2回『学習支援の集い』開催ご案内

- 1, 日時 平成20年12月15日(月)
  - 2, 場所 神戸市シルバーカレッジ 学習室1・2
  - 3, 主な議題 グループディスカッション  
その他情報交換・連絡
- 登録者に限らず一般の方の参加を歓迎します。

## 東灘区会

12月14日

『第9』を唄うために“リハビリ”

音5 東 藤井潤子

3月に右足人工股関節置換手術をし、1カ月経過「神戸リハビリ病院」に転院しました。

皆さん、病院へ入院する前によく学習しないと私のような神経の細い人には耐えられない騒音でした。とうとうリハビリの途中で退院となってしまいました。いろんな音に神経がおかしくなったのだと思います。

大勢の人にお見舞いをいただき、何回も励ましに来て下さったのに誰にも言わずに退院してしま

い誠に申し訳ございませんでした。よくなったの退院ではなく話の出来る状態ではなかったのです。この場を借りてお詫びします。済みませんでした。

退院したが独居老人です。幸いベッドはその日のうちに備え付けてくれました。ここで介護保険制度を利用することになるのです。実は介護2と認定されたのです。調査員(神戸市)とリハビリ病院のケースワーカー主治医の意見書等で決められたようです。ケースワーカーの人が、いいケア会社を紹介して下さいのおかげで、ケアマネージャーはとても患者の身になって相談してくれるし、気の利いた若いヘルパーさんが1時間半の間に私の入浴の介添え洗濯物の取り寄せ、お掃除、お料理と短時間の間にでき

ばきと仕事をこなします。段階によって使われる点数の上限があり使った点数、1点は大体1円。ちなみにヘルパーさんは1.5時間で308点です。リハビリは1回520円です。皆さんもこれから何時介護保険を利用するか解りませぬ。参考にしてください。

さて「介護タクシー」ってご存知かと思いますが家まで迎えに来て歌のお稽古場まで連れて行ってくれるのです。

“第9”の舞台に立って歌い終わると、一瞬静かな時が流れその後に来る大拍手「感動」で胸から熱いものがこみ上げて来ます。毎回涙を流します。今年も泣けるように“リハビリ”だ



## 中央区会

神鋼グループ地域交流誌“ぱるたうん”に中央区会の活動について取り上げられ、下記のような記事で地域の人たちに配布されました。 福-7 五味正昭

社会に恩返しする気持ちで  
息の長い活動を

NPO法人「社会還元センターグループわ」は、神戸市シルバーカレッジの卒業生を中心に知識や経験を生かして社会に還元するボランティア団体として平成9年に設立。平成16年にNPO法人となり、市内9区に各区会が存在します。メンバー総数は約1,100人。このうち中央区会は現在39人。最少人数の区会ながら、外部からのボランティア依頼に積極的に対応しています。

**少人数でも連携・協力しながら**

中央区会では、地元の介護老人福祉施設、特別養護老人ホーム、老人健康センター、障害者自立センターを中心に、継続したボランティア活動を行っています。メンバーの半数は70代以上で稼働人数にも変動のある中、外部との連

係をうまく生かしながら展開しています。例えば、外出やイベントの付き添い、車椅子介助、書道指導とホーム喫茶の運営などは、中央区会単体で実施。「グループわ」には区の枠を超えた5つの部会があり、この協力を得て、入浴後の身辺ケア活動は福祉部会と、歌唱指導やデイサービス者へのマジック公開などは文化部と連携して実施しています。



特別養護老人ホームでの夏祭り

**地域活動にも積極的に参加**

中央区会長の五味正昭さんは「活動範囲を広げ過ぎて中身が薄くなってはいけない。でもボランティア依頼には積極的に対応していきたい」と言います。こうした思いから継続して行うものと単発で行うものをうまく織り交ぜて活動プランを作り上げています。

昨年は中央区で開かれた「ハートでアートこうべ(障害者の文化祭)」や

「ハートフルフェスタ(健康福祉フェア)」などにも運営ボランティアとして参加。

また五味さんも所属している文化部会のグループのひとつ「むかし遊び研究会」を通して市内で開かれる「むかしあそびフェスティバル」に参加したり、幼稚園や小学校などを訪問。むかし遊びを通して、子どもたちの豊かな心を育てる活動にも余念がありません。



幼稚園でむかし遊びを紹介

**より良い方法を模索して**

「活動を通じていろんなことを感じます。社会に還元できているのかな、この方法でいいのかなと模索しながら、新しい発見や学ぶことも沢山ある。それに子ども達からパワーをもらっています」と五味さん。活動人数の増加を願い、さらなるメンバーの入会も心待ちにしながら、充実した活動はこれからも続きます。

# 長田区会

## NHKが取材に来た

(ラジオ体操)

長田 美工 8 松本 治司

それは7月中旬の事だった、私達が毎日実施している「観音山ラジオ体操会」に対し、永年継続と地域に貢献したと言う理由で表彰するから、7月27日に東京へ来るようにと言う連絡が、「全国ラジオ体操連盟会」から入った。しかも神戸市や兵庫県の代表ではなく、近畿地区の代表として表彰すると言う事だったのでみんなが驚いた。その話題が体操会を始め、たちまち地域に広がり「名誉な事だ」といってみんなが喜び、代表は勇んで東京へ出かけた。

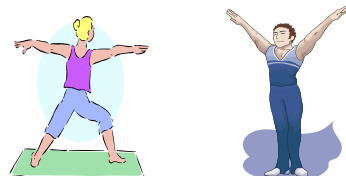
表彰式の翌日、代表は大きな表彰状の他に金色に輝く楯と記念品を持って帰ってきた。そして興奮しながらNHKでの表彰式の模様を皆さんに詳しく話してくれた。それから暫く経った8月中旬頃に、今度はNHKから電話が入り、ラジオ体操を取材したいと言う連絡であった。取材日は8月22日と決まった。ラジオ体操の会場である観音山は二重の喜びで湧いた。

この観音山は県立長田高校の南側にあり、高校のグラウンドもある小さな丘であるが、春には桜の名所でもあります。丘の麓には以前長田図書館があったが、新長田へ移転してからは今は地域の憩いの場所となっている。

この観音山でラジオ体操を始めたのは随分古い、ラジオ体操に出席すると出席表に押印してくれるが、この押印数が11,000回を超している人が何人居られる、即ち30年以上続いた事になる。特に80歳代のご婦人が多いのには驚かされる。ラジオ体操の放送が始まるのは午前6時30分であるが、既に6時から民謡が始ま

り一汗かいてからラジオ体操を行っているので冬期には丘の上はまだ真っ暗である。そんな元気なおばあちゃんを見ていると表彰されるのも当然かも知れない。私達「長田区会」のメンバーはその受付のお手伝いをしています。

取材の様子はNHK総合テレビの8月31日(日)の午前10時30分から『たまご』という番組で放送された。



# 兵庫区会

## 市長感謝状受賞と井内さんの

卒寿のお祝いの会

兵庫区会長 生7 大掛 敏夫

井内宇一さん(美工3期)の卒寿の祝いの会を、本人の誕生日9月25日に計画していたところ、神戸市社会福祉協議会から、市長感謝状(地域での奉仕活動を通じて10年以上の長きにわたり在宅福祉事業の増進に寄与)の受賞式が9月17日に行われましたので、卒寿の会にあわせて祝いました。

井内さんは、90歳になった今でもボランティアやイベントなど

への参加に加え、木工に対しても工具を持ち帰った今でも時々カレッジの作業場にきて作業をされています。



また、授賞式では個人として会員庄司清子さん(音文6期)が感謝状を受賞されています。

## お願い

本誌に同封した『日常生活のアンケート調査』は大阪大学大学院権藤恭之准教授からシルバーカレッジに協力依頼があったもので現役学生とわ会員、同窓会員が全面的に協力することになりました。すでに学生は、面接等による回答済みです。依頼文にもあるとおり、回答期限が平成20年11月14日(金)となっております。至急アンケート調査票を熟読の上、ご協力下さい。マークシート方式ですので、丁寧に記入して、折らずに返信用封筒に入れて投函して下さい(切手不要)

# 西区会

「西区会だより」が  
10月に50号を迎える！  
西区会会長（生 11） 茅中英一

会員間のコミュニケーションを図るために、平成16年（2004年）9月に創刊された「グループわ西区会だより」は平成20年10月に50号を迎えました。

松岡泰彦さん（6期会長）が立ち上げ、歴代の会長や幹事が連携し、会員の支援も得て、毎月の発行を積み重ねた結果今回に到ることができました。

現在の内容は、A4版1枚に、会員のボランティア活動の結果や今後の活動予定、トピックスや“わ”本部からの重要事項の伝達等です。毎月の幹事会で原案を検討、承認し、各担当幹事からメール、FAX、郵送や配達等によって全会員へ配布しております。

今年度の「西区会だより」では、重点施策の「4ブロック制」について、その目的の周知徹底、各ブロックの活動結果や今後の活動予定を限られた紙面の中ですが優先的に伝えるようにしています。

そして、「西区会だより」を1号から50号までをファイルにまとめました。西区会活動の歴史は、今後の諸活動推進の参考になるのではと考え、これを引き継いでいきます。

さて、「4ブロック制」の推進状況は、第1段階の各ブロックの顔合わせの懇親会（昼食会）が終わりました。第1ブロックは7月30日、第2ブロックは7月2日、第3ブロックは7月28日、第4ブロックは9月9日でした。これまで近くに住みながら相互に顔が見えにくかったコミュニケーションの壁に少し風穴が開きつつあるのではないのでしょうか。

第2段階として、第1ブロックは8月30日の「第5回押部谷・明石川まつり」当日、「まつり」前の「明石川クリーン作戦」にボランティア参



加、第2ブロックは、10月16日（木）神地区の公園めぐり、第3ブロックは10月12日（日）「第6回竹の台ふれあいまつり」に参加、第4ブロックは10月25日（土）「伊川流域ウォーク」に参加しました。

このように色々な「集い」を積み重ねて、会員同志や地域の方々との「支え合い」の輪が少しでも広がることを願い、その基盤づくりに関係者と協力し微力を尽くしております。皆様のご支援、ご協力をお願い致します。

## 季節の草花

# ミゾソバ

生8 - 文 久保 知彦

ミゾソバは、日本全国の小川や沼沢地、湖岸などに生育するタデ科の一年生の植物です。

水田地帯の用水路などに群生するので邪魔者あつかいされることもあります。

葉がソバに似ているので、この名前があります。しかしソバの花が白いのに比べて花の先端は薄い紅色なので違いがわかります。花弁に見えるところは「がく」で、花弁はありません。

葉の先を下にして見て、両脇にある突起を「つ野」と見ると、牛の顔に見えることから「ウシノヒタイ」という別名があるそうです。

ところで、植物や動物の名前の付け方には色々ありますが、中にはちょっとひどいものも多々あります。

ミゾソバ同じ仲間「ママコノシリヌグイ」という植物があります。葉はミゾソバに比べて三角で茎や葉にとげが一面に生えています。

植物の葉を便所の落とし紙に使うことは昔からありますが、この葉を使ったらどんなことになるでしょう。



カレッジ情報誌7月号、9月号に『ボランティアの心』として掲載された、第3回西阪順三さん、第4回中沢保夫さんを紹介いたします。

## 小学生の勉強をお手伝い

中沢 保夫 (音文9期)

### 生環で学んだ経験を生かす

西阪 順三 (生環8期生)

「ゴミの6分別がよく判ったので、お母さんにも教えてあげる」「いい勉強をさせてもらった。近所の奥さん方も誘えばよかった。」

こうべ環境未来館(西区)を訪れる小・中学校や自治会、婦人会の皆さんからこんな感想を聞くたびに「ボランティアを続けていてよかった」と、至福を感じながら活動しています。

環境未来館は、市民の皆さんに増え続ける家庭ごみを減らすにはどうしたらよいかを考えてもらう施設です。隣接する資源リサイクルセンターでは、全市から集められたカン・ビン・ペットボトルが、大型機械で仕分けされる状況が見学でき、小学生にも判りやすいようになっています。

私がやっているコーディネーターの仕事は、会館の管理運営のほか、館内の案内と展示物の説明が主ですが、団体客があればビデオで地球環境の現状や神戸市のゴミ事情などの解説もしています。見学者の疑問・質問に答えるのも大事な仕事です。Tシャツを見せて「これはペットボトルで作られたものです。1枚作るのにボトルは何本いると思いますか」といった問題や、ゴミの6分別クイズを出して、環境へ興味を持ってもらうよう工夫しています。

私がコーディネーターを志したきっかけは、カレッジ

で学んだ環境問題がすぐに生かされると思ったのと、少しでも社会のために役立ちたいと考えたからです。わずか月に2~3日の勤めですが、生きがいを感じながら頑張っています。

神戸市では5月にG8環境大臣会合が開かれてから、市民の環境への問題への関心は高く、環境未来館には連日2~3団体



リサイクルTシャツのアートが皆さんをお出迎えます

が訪れ、賑わっています。在校生の皆さんも一度見学にお越し下さい。

シルバーカレッジ3年生になった年、ボランティアを実践するきっかけ作りのため地域交流活動が始まりました。

私は「小学生の勉強をお手伝いしませんか」との声をうけ、同級生の西田さん・仲井さん・堺さんと4名で榎谷小学校へ校長先生を訪ね、何をすればよいかと聞きました。先生は「これを契機にチャレンジタイムという時間を新たに設け、3・4年生の計算力アップを目指したい。子どもは算数で自信がつくと他の教科でもやる気をおこすでしょう」といわれました。

具体的には、10分間位でできるドリルと取り組みその場で採点、合っていれば「百点だ、よくやった」とか、声を出して「九九をやろう」「この数字は6か0か分かりにくいので、きちっと書こう」「桁を揃えて」などのアドバイスを続けます。

暫く経つと、子どもたちの目が輝き始めました。私達は何物にもかえがたい感動を覚えるようになりました。一学期が過ぎた頃、担任の先生から子どもが目に見えて計算が正確に早くできるようになったと聞きました。

このような話が動機となりグループの一事業として志を同じくする人たちが集まり、事務局や教育委員会と連携して全市的な活動に広まっていきました。現在メンバーは100名を数え、夫々が自分の時間の都合に合わせて自主的な活動として続けています。

日本の未来を託す小学生のために、楽しく無理のない活動を続けられれば、先生やご家族に私達のボランティアへの熱意が伝わっていくことでしょう。

この学習支援は今年4年目を迎えます。これまでの支援実績は表の通りですが、興味をお持ちの方は、事務局(743-8101)の道満達士、宮崎芳江までご相談ください。

学習支援活動の状況 (20年度は6月現在)				
	17年度	18年度	19年度	20年度
支援要請校	22校	28校	51校	63校
支援活動校	18校	25校	30校	33校



# 今年もたくさんのブルーベリージャムがつくれました

< 環境部会 “八園会” “銀の匙” のグループ活動から >

暑かった今年の夏、毎日欠かすことなく額に汗しながら水遣りに精出してきたブルーベリーの育成活動。秋の訪れと共に少しずつ収穫が出来ようになり、今年摘み取った実の総量はなんと30kg ちかくにもなる大収穫。

しあわせの村の中にある果樹園で、例年ながらの環境部会“八園会”のみなさんの世話にしっかりと応えてくれた今年のブルーベリーたち。豊作でした。おいしい実りでした。少しずつ摘み取ってきた実を冷凍保存で確保しながら集めてきた収穫の実。

去る10月16日、環境部会“銀の匙”のみなさんの応援も得て、カレッジ調理実習室で、しあわせの村内「ワークホーム明友」の方たちを招待して、“ブルーベリージャム作り”を実施。冷凍保管していたブルーベリーがみるみるうちに甘酸っぱい香りのジャムに変身。みんなで収穫の喜びを味わい、即席の収穫祭兼試食会となりました。

試食会後は、多くの瓶詰め製品となった手作りブルーベリーを、「ワークホーム明友」の方たちにもお土産に持ち返りいただくとともに、しあわせの村の職員の方たちにも販売したところ即完売。売り上げはしあわせの村基金にお渡しすることができました。

また来年もがんばりま〜す。

(環境部会 菅田 忠志)



# 学園祭に“わ”が出店

KSC最大のイベント第14回学園祭が10月11日(土)カレッジキャンパス内で開催された。

わ 本部は、会員の食文12期生の皆さんの協力で、カレーライスの販売を行った。美味しいとの評判もよく予



定の350食を大きく上回り、ご飯が足りなくなり、大慌てしました。

(本部 米倉 和子)

また国際部会も同じテントの中で美味しいベトナム料理の揚げ春巻きとうどんを販売、珍しさも手伝って大好評でした。

(国際部会 加藤 寿子)



## グループ紹介

『お話糸車』

福11-文

阪田 輝夫

平成19年4月、福祉11期生12名の仲間で、グループ「糸」を結成。毎月2回の定例練習では、詩や文章を「いきいき」と表現できるような朗読を目指して、正しい発声、アクセント、呼吸法等と共に、声を出す楽しさ、作品に触れる楽しさ、表現をする楽しさを学びつつ学んだことをボランティア活動に生かそうと、朗読の他、紙芝居・エプロンシアター・大型絵本の読み聞かせ等にチャレンジし毎月2回、高齢者の施設と児童施設(保育所・児童館)を訪問し友愛を深めています。高齢者の施設では私たちの語りに、時には涙を浮かべ喜んで下さる場面も、又児童施設では訪問する度に成長している子どもたちに触れ圧倒されることも度々、素直にすくすくと成長する子どもたちの眼差しが美しく眩しく感じられる。尚、結成1年を過ぎグループ名を「おはなし糸車」と改名しグループ員一同さらに質的向上を目指し学んで行きたいと思ひます。





# 福祉部会

**あなたは賀川豊彦先生を知っていますか**  
 先生によって創設された老人施設でボランティアをしています。  
 福祉部会長 横井幸雄

今年「賀川豊彦献身 100 年記念事業神戸プロジェクト」があり、いろいろの事業が行われます。この事業の実行委員長は今井鎮雄学長でカレッジでも 11 月 16 日に記念講演が行われます。

神戸プロジェクトのシオリには賀川豊彦を次のように紹介しています。

1909 年 12 月 24 日、21 才の賀川豊彦は（神戸の）貧困にあえぐ人びとの為に献身しようと、当時劣悪な環境で生きることを強いられた人びとが生活をする地域に入ってきました。

賀川豊彦は当時死の病と恐れられていた肺病を病み、余命幾ばくも無いと宣告された身体でしたが、貧困と差別のただ中であって、困難を抱えた人々と共に暮らし、徹底してこれらの人々のために働いたのです。

1909 年から 1923 年までの神戸での活動は、福祉の向上を目指してキリスト教の伝道に始まり、労働運動、協同組合運動、平和運動、無産政党活動に発展しましたと紹介されています。

賀川豊彦が献身したこの地に、生誕 100 年を機に高齢社会の充実の為に老人ホームが建設されました。

賀川豊彦の遺志を受け継ぎホームの命名には「真心と愛情をもってすべての人に仕える」との願いが込められて「真愛ホーム」と名づけられました。（1996 年竣工）イエスキリストの生き方に従いその生涯を「いと小さき者のため」（社会的弱者）に捧げられた賀川豊彦により創設された社会福祉法

人「イエス団」により運営されています。

この「真愛ホーム」に中央区会の方々と福祉部会の方々によってボランティア活動を行っています。

入浴介助として車椅子の移動、入浴後のドライヤーによるケア、掃除用の布のカット作業、のボランティアを毎週 2 回、2 人、2 時間の活動です。その他に季節的な行事の支援を行っています。多くのボランティアの方が必要です。

**共にボランティアをして頂けませんか！**

ご協力を頂ける方はグループ わ事務局までご連絡ください。（月に一度のご協力でもかまいません）

# 国際部会

**国際部会で活動しませんか**  
 国 10-国 土井 昭政

“グループ わ”の国際部会では、種々のボランティア活動をしています。今年のグループ わ の総会議事録にも記載していますが、5 つの小グループでの活動と幾つかの定例行事での活動や不定期なボランティア活動などを行っています。以下に夫々の活動を簡単に説明いたします。

## 外国人支援グループ

活動の本拠地は兵庫カトリック教会内 聖家族児童館で主に神戸在住のベトナムの子供たちに学習指導、生活習慣指導を行っています。また時には子供と遠足や種々の行事への参加も行い、親たちから喜ばれると同時にグループメンバーは子供から若さのエネルギーをもらっています。

## PHD 支援グループ

PHD 協会の活動を支援しているグループです。来日した研修生に日本語を指導したり協会のお手伝いをしています。PHD 協会から感謝されています。

## 英語点字グループ

海外の青少年を対象に英文小説や小話などを英語点訳し、校正、印刷、製本を行い、海外に送付しています。年間 10 冊以上の点訳本を作成しています。点訳本が完成すると満足感に浸ることができます。英語の能力は問いません。

## ミャンマー支援グループ

日本でのミャンマー関連事業の支援と現地ミャンマーでの支援活動をしています。

日本では日本語学校への支援、留学生への支援、ミャンマー福祉施設支援、ミャンマー皆好会事業への支援が中心です。現地ミャンマーへも植林や英語点訳本の寄贈などで訪問しています。2009 年初めにツアーを組んで現地を訪問します。参加しませんか。

## 英語劇（インドラ）グループ

福祉施設、学校などを訪問し、簡単な面白い英語劇を演ずる活動グループです。

現在部員が欠員しており、興味のある方の入部を呼びかけています。簡単な英語を使い楽しい劇を演じることをモットーにしています。言葉の遊びを楽しみませんか。

以上の 5 つのグループ以外に、神戸で開催される国際会議での各種行事のボランティア、車椅子テニス大会でのボランティア、神戸国際交流フェアへの参加、留学生との交流、神戸訪問海外学生のお世話などを定例的に実施しています。

**国際部会では活動を通じて、多様な人とのコミュニケーションがもてる機会が多くあり、新しい友達、新しい知識が得られ、生活環境が広がります。是非、国際部会で、一緒に活動しませんか。**



# 環境部会

## にぎわった夏休みのイベント2題

環境部会長(生11期) 菅田 忠志

### 楽しかった“海藻押し葉”“貝がら細工”

カンカン照りの須磨海岸で拾ってきた緑や茶色のいろいろな形をした海藻や、各種2枚貝・巻貝、ちょっと変わった石ころが、こどもたちの豊かな感性により、それぞれ自分たちの“宝もの”に仕上がっていく。

平成20年7月22日(日)一の谷プラザと須磨海岸で実施した「夏休み 須磨海岸で遊ぼう!」の誘いに集まった親子40人。今年の猛暑に「長居は危険」と早々に収集作業を切り上げてきたが、しっかり集まった海藻・貝がら・石ころの数々。作業場所の一の谷プラザでは、講師にお招きした「西宮市貝類館学芸員 高田 良二氏」の興味深い説明・解説に耳を傾けた後各自思い思いに作業を開始。はじめのうちは少々戸惑いがちだったこども達も、ちょっとしたヒントで手が進み、帰るときには「宝もの」を手になにこにこ顔。また、やろうね。

須磨海岸では、かつては須磨の裏山から運び出す山土用のベルトコンベアーがあったところに貴重な海辺の植物が残っている。これをテーマに活動された生環8期のみなさんの説明で観賞。収集作業にあたっては須磨区会のみなさんに安全確保の誘導・監視をしていただきました。みなさんありがとうございました。



須磨海岸で収集し、一の谷プラザで作業をする参加者のみなさん



### “植物採集をして草花標本を作ろう”

夏休みも押し迫った8月23日(土)、しあわせの村あおぞら周辺で“草花標本づくり”を実施。当日は、ピオトープの会生環3期の坪井 幸子氏の指導で説明と注意事項を聞いた後、ときおりぱらつく小雨を気にしながら、「あおぞら」～「ピオトープ」周辺で植物採集を行う。

「やさしく扱ってくださいよ・・・」草は根っこもしっかり掘り出し、跡はきちんと穴埋めするのも忘れずに・・・昨日の雨が幸いし、スコップを使う土も軟らかい。

持ち帰った草花を水洗いし、作業部屋で標本づくりにかかる。しおりの説明や見本を見ながら悪戦苦闘。完成までには“乾燥”に数日～1週間ほどかかるため、ここではあくまでも乾燥段階前のところまで。

「後は自宅でしっかり仕上げ、夏休みの宿題にしてください。」と指導。

また、別に設けた“おもしろい草木遊び”コーナーでは、草バッタや草笛などに人気が集まり挑戦していた。

いろいろとお世話いただいた「ピオトープの会」のみなさん、サポートをありがとうございました。



上: 採集植物の根洗い作業



右: 採集植物の選択作業

下: 配置、固定作業

いいものができそう・・・



## 商店街で紙すき

環境部会 ケナフの会代表

生環 9期 長谷川 博

5月「ケナフの苗が欲しい」と新長田本町商店街より「わ」に電話あり。苗を持って訪問、会話の中から、8月に商店街の一角で「紙すき」をすることに合意。教室でなく、通行人対象の紙すきは初めての為、事前打ち合わせを入念に3回実施した。

8月8日(北京オリンピック開催日と後で知る)商店街の空地にテントを張り、机を並べ、電気を引き込み、水を持ち込み地元の人と9人のスタッ

フで準備万端。何人来場するか不安のスタートとなった。地元婦人会が児童館に事前に話をしていたため、まず児童約20人が来場。賑やかに紙すきをすると、通行人の関心を引き、次々と来場者があり、2時間で約50人が参加した。ケナフ会員の手による押し花で飾る八ガキ・栳を作成、栳は紐にケナフ繊維を使うと、好評で多くの方が栳に関心が集まった。当然指導しながらケナフの特徴、温暖化防止に役立つことをPR。児童には「八ガキ・栳だけでは夏休みの宿題にならない、ケナフ・温暖化防止を説明してね」

と説明。

新長田本町商店街は過去賑やかな通りであったが、今は寂しい商店街になっている。各地でシャッター通りが話題になっている、この商店街もこのままではその一つになる予備軍である。郊外の安売りの大型店に購入者が集まるが、大型店は赤字になれば簡単に撤退する。地元商店街の賑わいは、各商店の力量、商店街のアイデア、地元消費者の理解がないと戻らない。「ケナフの会」はその復活する力の助けになればと感じた1日であった。



新長田本町商店街で行ったケナフ紙すきはがき、しおり作りに集まった子ども達と通行人のみなさん

## グループわ 親子で集まれ 自然あそび塾 『里山探検』

10月5日(日)“知ってる? シルバーカレッジの里山”と題して親子を誘って開いた今年の里山自然塾。当日は朝からあいにくの小雨模様だったにも関わらず、申し込まれた親子の大半が参加されての開催。雨で足元が悪かったこともあり、里山には踏み込めずほんの入り口からの観察に留まったが、「里山ってどんなん? 普通の山とどう違うん?」「へー そうなんや、山や森は人が管理・整備しないと山が荒れ、ふも



との人だけでなく海の漁師さんも魚が減って困るんや...」など興味深い話に聞き耳を...

お話のあとは環境部会の里山グループ、アイナくらぶ、花山梅林会など多くの皆さんの手で集め、準備されたどんぐりなどの木の实、木の葉、小枝、つるなどを使っていろいろな工作をして楽しみ、それぞれ自慢のお土産に仕上げ持ち帰ってもらった。これをひとつのきっかけに、もっともっと親子で自然に親しむ機会を広げていってもらえればと願いながら今回の自然塾を終了した。



## グループ“わ”の会員にかけている保険が来年度から変わります

詳細は、折り込みの「来年度（平成21年度）より保険が変わります」をご覧ください。

また、『兵庫県ボランティア・市民活動災害共済』も併せてご覧下さい。

（チラシの平成21年版は平成21年2月頃出来るため平成20年度版です。）

平成20年度下期

わ主催・共催イベント予定

	開催日	テーマ	開催場所
1	H20 - 11 - 6(木)	秋の森林浴を楽しむ	西宮市甲山森林公園
2	H20 - 11 - 9(日)	わいわいストリート	しあわせの村
3	H20 - 11 - 9(日)	まちかどキャンパス	灘区民センター
4	H20 - 11 - 14(金)	会員親睦グランドゴルフ大会	しあわせの村
5	H20 - 11 - 16(日)	KSC開校15周年記念 特別講演会(愛し愛されての 人生 - 今に生きる賀川豊彦)	神戸市シルバー カレッジホール
6	H20 - 11 - 23(日)	バードウォッチング	しあわせの村
7	H20 - 11 - 30(日)	すますま ADL 体操と中国健康 体操体験+かえっこバザール	須磨 一の谷プラザ
8	H20 - 12 - 13(土)	草木染め、リースづくり教室	こうべ 環境未来館
9	H20 - 12 - 14(日)	親子手芸教室 クリスマスの小物を作ろう	神戸市フルーツ フラワーパーク
10	H21 - 1 - 18(日)	和風をつくって、須磨海岸で 凧揚げしよう	須磨 一の谷プラザ
11	H21 - 2 - 21(土)	企業のエコ施設を訪ねよう	灘浜サイエンス スクエア
12	H21 - 3 - 13(金)	春季ペタンク大会	しあわせの村球 技場
13	H21 - 3 - 21(土)	バードウォッチングと野草ク ッキング教室	こうべ環境未来 館
14	H21 - 3 - (未定)	親子で集まれ炭焼き体験塾と ケナフ紙すき塾	シルバーカレッ ジ
15	H21 - 3 - 29(日)	飛び出すエコスクール(東灘 区)	垂水環境センタ ー

年度末までの予定は上表のとおりですが、飛び入りでイベント要請があるかもしれません。また各イベントの詳細(参加募集時期、申し込み方法等)については、追って逐次ホームページその他で広報します。

情報伝達を情報ギャラリーに頼っては迅速性に欠き、時機を失することが多いためホームページを活用して頂きたく思います。そのホームページも賞味期限切れのものが多く、新しい記事に更新するため、区会長、部会長を通して、原稿をお寄せ下さい。

### お知らせ

わ 本部事務局は、  
平成20年12月20日(土)から平成21年1月4日(火)まで  
年末年始休業のため閉局しますのでよろしくお願い申し上げます。

### 情報ぎャラリーからのお願い

情報ぎャラリーでは、会員の皆様が興味と関心を持ちそうな記事、情報提供や役立つ記事などの投稿をお待ちしています。

#### ○ボランティア報告

区会、部会、個人を問いません。写真も可。500字程度

#### ○情報提供

イベントや展示会、作品展等“わ”会員関係者の情報

#### ○区会、部会短信

それぞれの会のトピックス  
写真も可、500字程度

原稿は、ワードまたはエクセルで作成して、メールまたは、CD、DVD、3.5 フロッピーで送って下さい。どうしても無理な場合は手書き原稿でも結構ですがその場合は郵送でお願いします。Eメールアドレスは [group-wa@wa-net.jp](mailto:group-wa@wa-net.jp) です。

### 編集後記

今年の夏は、猛暑にゲリラ豪雨、次々と発覚する偽装、隠蔽事件、汚染米の不正転用、大麻吸引、所持事件等々日本の将来はどうなるかと思えば、アメリカ発の金融恐慌と衆院解散風が吹き荒れそうな秋となった。

気分一新のため、次号から情報ぎャラリーの紙面を、読み易く明るい内容にするため3段組みから2段組に変更し、文字も少し大きく、写真も多く掲載していくことを検討しています。本号7ページ、10ページでテストしてみました。上記お願いにもあるように皆さんからの投稿をお待ちしています。(HM)